

道志小学校 令和のやまなし教育活動モデル事業 実践報告 ①-2

「劇の表現を楽しみながらコミュニケーションを学ぼう！」

実施年月日	令和6年1月18日(木)	実施時間	1時間×3回
	令和6年1月30日(月)		
	令和6年2月5日(月)	対象学年	低学年(1~3年生) 高学年(4~6年生)
実施形態	ワークショップ	講師等	アートイン ASHIBINA

実施のねらい

主体的に学習を進める上で、協働的な学びにおいては自ら円滑な人間関係を構築し周りの人の力を生かしながら取り組む力が必要となる。今回の取組は、児童演劇協会が実施しているコミュニケーション育成事業の内容で行われている演劇的な手法を用いたワークショップを通して主体的な学習者として学習に取り組む際に必要とされるコミュニケーション力を高めることを目的としている。

活動の概要

児童演劇協会から委託を受けて指導を担当している劇団アートイン ASHIBINA(あしびな)の劇団員を講師として招聘しワークショップ形式でコミュニケーション力を高める活動を実施した。今回は、低学年(1~3年)と高学年(4~6年)の異学年集団によるワークショップを行った。

基本的には以下の内容を演劇の世界へ没入しながら実施した。

- ①決められた音を合図に講師から出される指示に合わせて身体表現を自由に行う。
- ②異学年や同学年などランダムに小グループ(ペア・複数人)を作り、上記①の形式で自由な身体表現をグループで相談しながら行う。
- ③道志村の伝説をテーマに表現することを指示し、更に人数を増やした集団で話し合いを行って内容を決め、発表形式で表現活動を行う。

実施によって得られた成果

(成果) 児童のコミュニケーションへの意識の変化・表現意欲の向上

- 表現活動で他者と関わることでコミュニケーションの大切さを感じられた。
- 異学年・同学年集団で話し合ったことで、話のまとめ方を学ぶことができた。
- テーマに合った表現を決める話し合いが、学級での話し合い活動の参考になり意見を言う実践練習になった。

※リラックスした雰囲気の中で講師から指示されたテーマについて自由に考え身体表現するという手法で演劇的な世界を存分に楽しむことができた。また、その過程で学年や異学年グループで話し合ったり、共同で表現したりする活動を通して、自然とコミュニケーションを取る機会が生まれ、自分の考えを他者に積極的に伝える意欲が高められた。また、話し合いによってグループの表現活動を決めていく過程で他者と折り合いを付けて結論を導くコミュニケーションスキルも向上し、円滑に意見交流する姿が見られた。

代表的な児童の感想

- ・友達とコミュニケーションを取る時、相手も気持ちを大切にしようと思った。
- ・コミュニケーションは話すことだと思っていたけど、身体表現でもできることが分かった。
- ・自分で何かを表現するというのは、すごく大事で面白いと思った。
- ・みんなで考えた身体表現をした後に説明するのが新しい発表の仕方だと思った。
- ・体で伝えると会話が弾みさらに仲よくなった。コミュニケーションを学べて良かった。
- ・自分のオリジナルの考えも作れるし、他の人の考えも見られるから楽しく学べた。
- ・話し合ったり協力したりしながら、相手に自分の気持ちを伝えることの大切さを感じた。

活動の様子

